

令和 5 年度 県立古河第三高等学校自己評価表

目指す 学校像	<p>「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、一人一人の個性と資質・能力の伸長を図り、広く社会に貢献することができる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒を育む学校 ○ 他者への思いやりの心にあふれた生徒を育む学校 ○ 柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒を育む学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
<p>大学の合格者数は国公立大学が 24 名、私立大学がのべ 391 名であった。さらに、私立大学では津田塾大などを含め 9 名の繰り上がり合格があり、国公立大学では中期日程で都留文科大学、後期日程で群馬大学の合格があった。最後まであきらめずに挑戦した生徒がチャンスを掴んだ。また、進路希望調査等による第一志望現役合格者は 134 名 (60.6%) であった。5 月から開始した自分の進路志望をプレゼンテーションする大会では、131 名が参加し、専門学校と短大も含め、総合型選抜、学校推薦型選抜に挑んだ生徒のべ 127 名中 101 名 (79.5%) が合格となった。部活動においては、コロナ禍の中、様々な大会が制約を受けた中でも、生徒達は自主的にかつ積極的に活動した。学習の成果のみならず、特別活動や学校行事に関しても、文化祭や球技会を実施し、生徒の主体的な取り組みと共に望ましい成長を実感できた。</p> <p>生徒募集においては、7 年連続で志願者数が定員を下回ったが、志願倍率は増加した。コロナ対策の緩和を見据え、広報の手段や機会をさらに工夫していく必要である。</p> <p>これまで以上の教育活動の充実を図り、地域の伝統校として地域の期待に応えるとともに、信頼を確立する。主体的で積極的な学習意欲を喚起し、学びの楽しさを実感できる授業を目指し、豊かで確かな人間力の育成を図る。交通事故件数は減少しており、警察等との連携により安全教育の充実を目指す。学校安全に全職員で取り組む覚悟を持つ。</p>	1 生徒が希望する 上級学校進学を実現する	<p>① 1 年「自己発見」 2 年「自己発展」 3 年「自己実現」をめざし、進路行事や面談、普段の対話から生徒の知っている世界を広げる。</p> <p>② 進路講演会、「進路だより」の発行、学校ホームページ等を活用して生徒・保護者に適切な情報を提供し、動機付けをする。</p> <p>③ 上級学校の公開講座の受講、オープンキャンパスへの参加を促し、職業・大学・学部・学科について理解を深める。</p>	B
	2 家庭学習の習慣化	<p>④ 外部模試結果等の分析を定期的実施するとともに効率的な運用により、学習意欲を向上させ、学習時間を増進させる。</p> <p>⑤ シラバスや生徒意識調査結果等を生徒に提供し、進路実現に必要な学習時間を定量的に分析し、生徒自身に中・長期的学習計画を立てることの重要性を認識させる。</p>	B
	3 豊かな人間性を身につけるための取り組み	<p>⑥ 授業や課外活動を通して生徒の自己有用感を高揚させ、生徒の自律・自立の心を育てる。</p> <p>⑦ 豊かな人間性を育むために、教養講座や、図書館の蔵書を有効に活用する。</p> <p>⑧ 集団活動や体験活動を通して生徒の社会性を育み、併せて実践力の向上に努める。</p> <p>⑨ 部活動・生徒会活動・JRC 委員会・学校行事など教科外活動を充実させ、キャリア・パスポートを活用して責任を持って行動する態度を育てる。</p>	A
	4 広報活動の充実	⑩ 学校公開・中学校訪問・塾訪問・ホームページの活用を通して、小・中学生やその保護者や教員に対して、積極的に本校の良さをアピールする。	B
	5 個に対応した指導	<p>⑪ 生徒との信頼関係を築くため、担任との三者面談週間を少なくとも年 2 回実施する。また、二者面談も積極的に実施する。</p> <p>⑫ 学習指導要領に対応した授業進度・レベルを再考し、理解力向上を図る。</p>	A
	6 学校安全の徹底	⑬ 学期毎に実施する定期点検の内容と精度を高め、全職員・全生徒の防災意識を高め、危機察知能力の向上を図り、安全安心な学校環境を実現する。	A
	7 働き方改革の推進	⑭ みんなで協力する体制づくりをすると共に、時差出勤制度を積極的に活用し超過勤務時間の減少を図る。	A
	8 授業改善	⑮ 生徒の学力向上のため授業第一主義を掲げ、授業力向上を意識し、教員相互の授業見学を定期的実施するなど、授業の質向上を図り、生徒の授業満足度 80% 以上を目指す。	B

評価基準

A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

三つの方針		具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、一人一人の個性と資質・能力の伸長を図り、広く社会に貢献することができる人材を育成する。 ○自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒。 ○自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒。 ○柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒。	B	各校務部及び学年において、校訓に沿った教育活動の具体化を図る。 個に応じた学力向上のための目標設定と、部活動や学校行事、探究活動に主体的に取り組む生徒の育成を図る。 本校の特性をアピールする場を増やし、志願者増を図る
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○授業こそが最も実力を上げる場であることを浸透させ、三年間の生徒育成計画のもと密度の濃い授業の実践・研究を図る。 ○部活動・特別活動及びボランティア活動等の体験活動や道徳・探究の授業を通して、多様な人々との対話のなかでコミュニケーションをとりながら社会貢献を目指すグローバル市民の育成を図る。 ○確かな学力をもとに将来への目標を生徒自ら設定し、進路希望実現のために邁進できるアクティブラーナーを育成する。	B	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○意欲にあふれ、自ら学び行動する生徒。 ○多様性を尊重し、対話を通じてコミュニケーションをとりながら社会への貢献を目指す生徒。 ○将来、地域の政治・経済・文化等を牽引することができる生徒。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る	・小テスト等を利用して、学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。	A	・副教材の統一 ・各課外の目的の共有
		・個に応じたきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にする。	A	
		・学習内容の定着のため、教員へ質問しやすい状態を作り、放課後等を効果的に利用する。	B	
	進路実現のため自主学習定着に努める	・ノート・課題等を定期的に点検し、自主学習の習慣をつける。	A	
		・予習・復習のやり方、模試の解き直し等の指導を通じて、継続的に学習する方法を身につけさせる。	A	
		・小論文や参考書コーナーを図書館内に設置し、自主的に学習できる環境作りをする。	B	
		・大学入試の傾向と対策を指導し、自主学習の内容に役立たせる。	B	
	わかる授業の工夫、改善に努める	・シラバスを作成し、目標に添った授業計画を立案する。	B	
・各種研究会、研修会に参加し、自己研鑽に努める。		B		

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

地歴 公民	基礎学力の向上と定着及び授業研究の推進	・小テスト・課題プリント・レポート等を用いて、基本的事項の確認と確実な定着を図る。	A	B	・新課程入試への対応 ・ICT教材の活用
		・わかりやすく効果的な授業を目指し、教員間の研修を行う。	B		
		・生徒の自発的学習を促し、学習意欲を高められるよう、授業を工夫する。	A		
		・知識・理解の定着のために、問題集を効果的に活用する。	B		
数学	基礎・基本の定着を促進する	・単元ごとに考查を実施することで、学習のつまずきを早期に発見し対応する。また、必要に応じて補習を実施する。	B	B	・学力と学習意欲を高めるために ICT 教材の研究と実践を行う。 ・年間で見通しを持ち、計画的に授業進度を管理する。 ・授業の内容の定着を目指し、課外、課題等で 3 か月から半年前の内容にも取り組むようにする。
		・映像資料やパワーポイント、1人1台端末等の ICT を活用し、数学的な事象に対する関心や理解を深める。	A		
	家庭学習の習慣化に努める	・考查ごと（定期的）に問題集用のノートを提出させることで、家庭学習の動機付けを行う。	A		
		・長期休業中には課題を与え、学期中の復習ができるようにする。	B		
		・シラバスを元に目標を意識させ、計画的に予習や考查の準備ができるようにする。	B		
	進路実現のための指導を工夫する	・模擬試験を利用して、家庭において発展的な内容に自主的に取り組む習慣を付ける。	A		
		・模擬試験を通して、学習の定着の状態を認識させ、自分の課題に気づかせる。	B		
		・各種課外では、レベル別講座やコース別講座など講座内容を工夫して実施する。	A		
		・各研修会に参加し、入試問題などの分析を行い、生徒に還元する。また、互いに授業見学を行い、研修に努める。	B		
		・3年では課外を通して発展的な内容に取り組み、生徒の学力向上を図る。	A		
理科	実験・観察を通して自然現象に対する興味・関心を高めるとともに、基礎的な学力の向上と定着を図る。	・学習内容の理解度を把握するため、小テストを実施する。また、課題を提出させることで知識の定着を図る。	B	B	授業の相互参観を行い、授業技術の向上を務める。 観察・実験を実施して、技能習得に努める。
		・映像資料やパワーポイント等の ICT を活用し、科学的な事象に対する関心や理解を深める。	A		
		・3年では課外を通して発展的な内容に取り組み、生徒の学力向上を図る。	A		
		・授業の相互参観など教員間の研修を行い、自己研鑽に努める。	D		
		・観察・実験を通して、自然現象への興味・関心を高め、基本的な実習技能を習得させる。	C		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

保健 体育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の種目の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 	A	A	生徒がより一層主体的に取り組むことができるように選択授業を実施する。
		<ul style="list-style-type: none"> 体育や保健の各単元を通して、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 	A		
芸術	芸術に対する興味・関心の向上	鑑賞と表現活動とのバランスのとれた授業を実践、美的体験を重ね芸術への興味・関心を高める。	B	B	生徒が主体的に表現、鑑賞する授業を実践することができた。次年度も芸術への興味関心を高める授業を実践する。
	鑑賞力・表現力の育成	芸術と様々な文化（歴史・風土・言葉・諸芸術）との密接な関連を理解させ鑑賞する力を育てる。	B		
		生徒の自主計画による学習を実践、知識と技能を結びつけて表現する力を育成する。	A		
外国語 (英語)	基礎学力の定着	1 学年では、英和辞書や参考書、音声教材などを効果的に活用する学習習慣を確立させる。読んだり聞いたりした英文の内容を理解させ、身近な話題に関する自分の考えや意見を発信する力を養う。	B	B	今後も入試問題に十分対応できる力を身に着けられるよう、3年間を見通した計画を立て各学年で適切な授業展開・教材選定を行う。英語で考え表現する練習を多く取り入れるようにする。
	演習の充実	2 学年では、文法等の知識を定着させるとともに、まとまった量の英文の内容を素早くつかめる読解力を身につけさせる。また、考えや意見を伝え合ったり、まとまった量の英文を書いたりすることで、自ら英語で表現する力を育てる。	B		
	入試レベルの実力の養成	3 学年では、リーディング（速読）スキルや自己発信活動スキル（スピーキング・ライティング）の養成を第一とした授業を展開する。また、リスニング・文法語法・長文読解テストを定期的の実施し、実践的な学力の定着を図る。	B		

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

家庭	基礎的知識と生活技術の習得・向上	<ul style="list-style-type: none"> 多様な教材の活用と発問の工夫により、学習内容に興味・関心をもたせ、日常生活に必要な基礎的知識を習得させる。 実習・実技試験により生活技術の習得と向上を図り、生徒自身が成長を実感できる授業を展開する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会の変化に対応し生徒が興味・関心をもてる教材を選ぶ。 わかりやすい授業の改善・工夫をする。 効率の良い実技指導の方法を考える。
	社会生活の充実・向上に繋がる実践的態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 社会的問題に繋がる家庭的課題を取り上げ、家庭と社会の繋がりに関心をもたせる。 調べ学習や発表を通して様々な価値観があることに気付かせ、生徒の選択肢を拡げ、判断力と実践的態度を育成する。 日常生活で即実践できる取り組みを考えさせる。 	B	
	課題解決能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 実験・実習では、課題を明確にし、個人目標・グループ目標を設定させ、協力して取り組ませる。振り返りをその後の生活に生かせるようにする。 課題解決学習「ホームプロジェクト」を通し、家庭における自分の役割を認識させ、個々の自立や家庭生活の改善・向上に生かせるようにする。 	C	
情報	情報社会に主体的に参画するための資質・能力の育成及びメディアリテラシーの醸成	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決に関連したデータの収集・分析を行い、情報活用能力を育成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> プログラミングやデータサイエンス、共通テスト等に関する最新の情報の収集、研鑽を積む。
		<ul style="list-style-type: none"> 情報及び情報技術を活用した授業を行い、問題解決能力を育成する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 情報社会の問題点について考えさせ、情報モラルやマナー、知的財産権等を理解し、情報活用のリテラシーを身に付けさせる。 	A	
教務	授業時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間確保に努め、出張等の授業の振替率96%以上を維持する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習評価の方法について、検証、改善を重ね、より良いものを目指す。 広報活動の方法を工夫し、現在の本校の状況が伝わるようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> 授業時間の有効な利用のためにも「授業開始のチャイムは教室で聞く」という、共通理解を徹底する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 曜日別の授業予定時間数をもとに定期考査ごとに曜日変更を行い、可能な限り総授業時間数の均一化を図る。 	B	
	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開・中学校訪問・塾説明会等を通して、小・中学生やその保護者や教員、また地域に対して、積極的に本校をアピールする。また、HPを有効に活用する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 魅力のある学校案内・学校紹介ポスターを作成・配布し、本校の特徴を中学校・塾に伝える。 	B	
	新学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や学習評価の工夫、教育課程の改善を図る。 	B	
校務支援システムの活用	<ul style="list-style-type: none"> 統合型教務支援システム(教助)の運用体制の確立を図る。 	B		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

進路指導	I 10月実施の進路希望調査にて進路の別の未定者を各学年2%以下にする。 II 10月実施の進路希望調査にて大学進学希望者の学部系統別未定者を1年25%以下、2年10%以下、3年5%以下にする。 III 民間就職内定率100%を継続する。 IV 進路調査における第一志望現役合格率50%以上にする。 V ベネッセGTZでB1レベル以上の大学合格者100名以上にする。	1年「自己発見」 2年「自己発展」 3年「自己実現」 ・進路希望調査、進路・学習に関する意識調査を実施し、生徒の実態を把握するとともに問題点の検討とその改善策を講じて学年の適切な進路・学習指導をサポートする。 ・生徒の進路希望状況を分析し、希望実現をサポートする。 ・進路行事や面談、普段の対話から生徒の知識を広げ、進路選択の一助とする。	A	B	引き続き業務の見直しを図り、効率化を進める。 進路に関する情報を職員間で共有できるような体制を構築する。
		・進路講演会、「進路便り」の発行、学校ホームページ等を活用して生徒・保護者・教員に適切な情報を提供し、動機付けをする。	A		
		・上級学校の公開講座の受講、オープンキャンパスへの参加を勧め、職業・大学・学部・学科について理解を深める。	B		
		・生徒の進路希望に応じ、効果的で十分な指導を検討・実践する。	B		
		・入試・模試結果を分析し、学年や教科の実態を把握し、学習・進路指導の改善に努める。	C		
生徒指導	1 基本的生活習慣の確立	・スクールカウンセラーとの連携を密にして、多様化する生徒の悩みに対応する。	A	A	中高生の自殺が増加傾向にあるため生徒の状況を見極めながら職員間の情報共有が必要である。 また SNS の適切な利用やいじめ防止についても引き続き注意が必要である。
		・挨拶の習慣化を目指す。	A		
		・部活動や様々な学校行事を通し、生徒の自己肯定感、自己指導能力の向上に努める。	A		
	2 安全教育の徹底	・地域や警察、関係諸機関との連携を密にし、事件・事故の未然防止と早期対応に努める。	A		
		・外部講師を積極的に活用し安全意識の啓発に努める。	A		
		・生徒会活動を中心に、情報安全に関する自主規制や交通マナーアップを推進する。	B		
	3 危機管理体制の強化	・面談等を通し生徒とのコミュニケーションの緊密化を図る。	A		
		・アンケートによるいじめ、体罰、パワハラ等の未然防止・早期対応に努める。	A		
		・地域と学校との共存	A		
	4 社会人としてのモラル・マナーの習得	・マナーアップ強化週間を通しての啓発活動	A		
		・SNSの正しい利用についての意識啓発	A		
		・生徒会を中心とした自主規制意識の醸成	B		

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

特別活動	特活関係行事全体を見直し、生徒の自主的活動を推進する体制を整備する	・各行事の計画は、年間計画を見据えた上で立案する。	A	B	学年や他の分掌と協力しながら学校行事を運営していきたい。必要な業務を見直し、効率化を図っていきたい。
		・各行事の企画・運営にあたっては、各学年や各分掌との連携を十分に図る。	B		
		・各行事では、生徒の自主性・創造性が発揮できる環境や機会を提供できるように計画する。	A		
	生徒会活動の活発化と充実を図る	・各委員会の計画的で活発的な活動を推進する。	C		
		・文化祭・球技会では、生徒の自主性・創造性が発揮できるように十分検討し、改善する。	A		
		・さわやかマナーアップキャンペーン等に積極的に参加し、規範意識の高揚やマナーの遵守に努める。	C		
	部活動の充実	・運動部への加入率を増加させるとともに、退部する生徒数の減少をめざす。活動時間を確保し、心身のたくましさや豊かな心を育成する。	B		
		・部活動の運営・予算等の問題点について検討し、改善を図り、施設・設備の充実に努める。	A		
	知新館の有効利用	・知新館(合宿所)の適正・有効な利用を図ると共に、施設・備品等の整備に努める。	C		
	保健厚生	生徒の心身の健康増進	・日常的、定期的に健康観察・保健調査・健康診断・健康相談を実施し、生徒の心身の管理に努める。		
・疾病・感染症予防、日常の生活における健康増進、保健室利用状況等について「保健便り」を発行し、生徒の心身の健康に関する知識、管理能力を高める。			A		
・専門家による性教育講話を実施し、生徒の心身の健康に関する知識、管理能力を高める。			A		
・防災避難訓練を充実させ、防災意識、危険察知能力を高める。			B		
学校環境の整備		・清掃用具の管理、清掃指導を徹底し、学校環境の美化等情操面への配慮に努める。	B		
		・施設設備(扇風機・エアコンを含む)の衛生管理・安全点検を日常的、臨時的に実施する。	C		
		・環境衛生検査(教室内の空気・照度・飲料水、放射線量)・安全点検(使用施設の営繕調査)を定期的実施し、安全安心な学校環境を実現する。	A		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

図書	図書館利用の促進	・生徒の読書活動・読書指導の場である「読書センター」としての充実を図る。	B	B	・9月以降図書館を利用する生徒が減少した。イベントを増やしたり図書館のPRを充実させて利用者を増やしていきたい。 ・図書委員の活動は精選して実施できたと思う。
		・生徒の学習活動支援・授業充実の場である「学習センター」としての整備を図る。	B		
		・生徒・教職員の情報ニーズへの対応や情報収集・選択・活用能力育成の場である「情報センター」としての充実を図る。	A		
		・図書専門委員会を定期的に行き、図書館便り・カウンター業務・展示コーナー作成・行事参加・生徒図書委員研修会への参加等、生徒が積極的に動ける委員会活動を目指す。	B		
		・視聴覚教材・資料の充実を図る。	B		
		・授業や受験勉強に利用できる図書館・視聴覚室作りを進める。	B		
渉外	学校と保護者、同窓会との連携を密にして、PTA・同窓会の活動の円滑化、充実を図る。	・PTA総会や授業参観、学校公開・文化祭等の各種学校行事への参加を保護者に呼びかける。	B	C	PTA関連行事の精選と組織の見直し、広報活動について考える必要が生じている。
		・本校のホームページ等を利用してPTA活動の広報に努める。	C		
		・地区別PTA等のPTA活動に教職員も積極的に参加する。	C		

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

1 学 年	基本的な生活習慣の確立	・挨拶や礼儀、普段の言葉遣いや身だしなみ等、きまりを守る生徒を育成する。	B	B	生徒の欠席については、生徒からの情報、サインは見逃さないようにし、職員間での情報交換、共有は活発に行いたい。
		・欠席・遅刻・早退をしないよう規則正しい生活を心掛けさせ、日々の体調管理に気を配る。欠席・遅刻連絡を含め、保護者との連携を密にすることで、学校と家庭との協力体制を構築する。	A		
		・面談等を通し、生徒個々へのきめ細かな指導を行うための共通理解・情報共有を行う。	A		
		・授業の開始時間や行事等の集合時間を守るなど、時間を厳守する態度を育てる。	A		
		・清掃や委員会活動などにおける役割分担を明確にし、所属意識を醸成する。	B		
		・「今、すべきことは何か」を考え、状況に応じた適切な態度・行動ができる生徒を育成する。	B		
	基礎学力の向上	・将来に向けた具体的なイメージを掴むことができるよう、段階的に進路情報を明示する。	B	C	偏差値に関して、生徒たちの実態と離れてしまっていると思われる。次年度は正しい状況把握を元に、課外など実施の仕方を吟味し、生徒の学習意欲の向上や家庭学習時間の向上につなげていきたい。
		・3年後の自己実現を図るため、学習の積み重ねの重要性を理解させ、家庭学習の習慣化を促す。	C		
		・授業を大切にす姿勢を身に付けさせ、課外や校外講座を積極的に利用しながら、考えを深める体験をさせる。	B		
		・定期考査や校外模試への動機付けを積極的に行い、偏差値50を超える生徒が半数以上、55を超える生徒が50名以上を目標とする。	D		
		・成績不振の生徒及び保護者に対して学年主任面談を行い、家庭の協力を求める。	B		
		・成績と学習時間の相関関係や学習の成果を見える化し、生徒のやる気を喚起する。			
良好な交友関係・連帯意識の育成		・スプリングセミナーを実施し、新たな交友関係の構築及びクラスづくりの一助とする。	A	B	探究活動では、生徒の科学的思考・論理的思考の成長を図りたい。個々の生徒の印象に残る活動にしたい。生徒の様子をこまめに見ながら、生徒同士切磋琢磨できるような良い雰囲気構築するようにしていく。
		・LHR等を利用したクラス単位の活動や学年単位でのクラスマッチ等のレクリエーションを通し、集団の一員であることを自覚させ、連帯意識の向上に努める。	B		
		・文化祭や球技会等の学校行事、部活動やボランティア活動等に積極的に参加できるように声かけを行い、協力し合える雰囲気をつくる。また、安心安全な教室環境作りに努める。	B		
		・探究活動を通して自己の意見を深化させ、多様な意見を享受しながら「敬愛」「自立」の精神の育成を図る。	C		
進路の意識付け		・LHR、授業時間を通して学習の意義と目的を考えさせる。	B	A	進路の3年間の流れを共通理解し、生徒に向けて情報を発信していきたい。
		・事後の教科指導に反映させるため、外部模試の後には分析会を実施する。	A		
		・文理分け説明会や進路講演会、三者面談を通して、生徒および保護者の進路意識を向上させることで、2年次の適切な文理選択を実現する。	A		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分Aである

E：できていない

2 学 年	自己管理力の育成	・生徒心得等のルール（礼儀・身だしなみ・挨拶等）を遵守する規範意識を高める。	B	B	挨拶がもう少しあってもよい。リボンや防寒着など服装が徹底できなかった。他学年、生徒指導部との連携が必要。
		・欠席・遅刻・早退をできるだけしない雰囲気づくりをする。欠席・遅刻等が多い生徒は、保護者との連携を密にし、面談等のきめ細かい指導をする。また、欠席・遅刻・早退をする際は、保護者から学校へ連絡することを徹底させる。	B		
		・着席してチャイムを待つ、集合時間を守るなど、時間を遵守する態度を育てる。	A		
		・清掃・委員会など役割分担を明確にし、自ら考え責任を持って行動する態度を育てる。	A		
	基礎学力の向上	・進路目標の設定と実現に向けて、学習の大切さを理解させる。とくに授業に真剣に取り組む、思考力、判断力、表現力を身につけさせる。	B	B	11 月模試偏差値 50 以上が 61 名、55 以上が 26 名(昨年は 58 名、20 名)。前年は上回ったが、当初の学年目標を下回った。
		・進路講話等において家庭学習の重要性を意識させ、「予習⇒授業⇒復習」の黄金のサイクルが習慣化するように指導する。	B		
		・課外、校外模擬試験に積極的に取り組ませる。なお、校外模試において偏差値 50 を超える生徒が 100 名以上、55 を超える生徒が 50 名以上を目標とする。	B		
		・前、後期末に成績不振の生徒の保護者を召喚し、家庭の協力を求める。	A		
	主体性および連帯意識の育成	・目的意識をもって主体的に修学旅行に臨ませる。	B	A	修学旅行を通して主体性が育まれた。時間を守り、規律ある団体行動ができた。
		・クラスへの帰属意識を涵養し、文化祭や球技会等の学校行事に主体的に参加させる。	A		
		・LHR等を利用したクラス単位の活動や、学年単位でのレクリエーション行事を生徒主導で実施することにより、自主性および連帯意識の向上に努める。	A		
		・部活動・ボランティア活動等への積極的な参加を通して、「敬愛」「自立」の精神を育み、主体的に行動できるリーダーの育成を図る。	B		
	進路目標の設定	・様々な進路行事を通して学習の意義と目的を考えさせ、日々の積み重ねが進路実現に関わることを理解させる。	B	B	受験生という自覚が薄い生徒が多い。進路行事ごとの意識付けが必要。探究の授業は総合型入試のプレゼン対策になりうる。
		・卒業生との懇談会等の進路行事や「総合的な探究の時間」の授業等を通して、自己の適性と進路の方向性を見極めさせ、次年度の適切な進路選択を実現する。	A		
		・外部模試分析会を実施し、進路指導と教科指導の連携を図る。	B		
		・コース分け説明会や進路講演会、三者面談を通して、受験に対する知識や理解を深め、次年度は受験生であるという自覚と意識をもたせる。	A		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

3 学 年	自律的な精神の育成	・社会生活において基本となる身だしなみや言葉遣い、挨拶などの重要性を理解し、自主的に実践することを徹底させる。	B	B	素直な生徒が多い反面、幼さから、行動に問題がある生徒が若干みられる。そのためSNS等の使用において、不適切な使用が見られた。繰り返し呼びかけることが必要であった。
		・自己管理の意識を高め、欠席・遅刻・早退をしない基本的な生活習慣を身につけさせる。	C		
		・生命を尊重し、互いに安心・安全な生活を送るため、交通ルールや社会法規を遵守する態度を育てる。	B		
		・社会規範を守りながら、適切にSNS等を利用できるよう、啓発する。	B		
	進路実現に向けた学力の獲得	・一人一人の生徒が希望する進路を実現するための、十分な学力を身につけさせる。	B	B	総合型入試等の対策が早期から始まるため、基礎学力が2年生までに身につけていない生徒には、個別の指導が必要。
		・授業をより充実したものにするために、「予習⇒授業⇒復習」を徹底させ、学習内容の定着を促す。	B		
		・積極的に課外授業への参加を推進し、学習指導の充実を図る。	B		
		・自ら学習する姿勢を育成することで、受験生として必要な学習時間を確保し、学習の質を高めさせる。	B		
	連帯意識の醸成	・学校行事に主体的に参加させ、クラスや学年としての連帯感を持たせる。	A	A	最高学年としての意識をもって、各行事・部活動に臨めた。
		・学校行事や部活動を通して、組織をリードすることのできる生徒を育てる。特に部活動においては、最高学年としての役割を果たすように意識させる。	A		
		・体験活動や校外での活動に積極的に参加させることで、相手を思いやり、互いに協力する「敬愛」の精神を育む。	B		
	進路希望の実現	・校訓である「自立・敬愛・創造」の意義を十分に理解させ、それらを実践することで進路実現へと導く。	B	B	2年までの学力養成が十分でなかった生徒が早々に総合型・推薦入試だけに絞った対策にシフトしてしまい、学力不足のまま進学することになってしまったのではないかと心配がある。
・自分の進路について様々な角度から主体的に検討し、目標に向けて自主的に努力し、「自ら動く」姿勢を身につけさせる。		B			
・外部模試分析会を実施し、進路指導と教科指導との連携を図る。		B			

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない